



“酒田港を海から学ぶ”見学会を多数開催！

7月7日(火)山形市あこや町2丁目自治会

7月9日(木)米沢市立関根小学校

7月7日(火)、山形市あこや町2丁目自治会の皆さん(計15名)が酒田港を訪れ、北港緑地展望台と当事務所の港湾業務艇「みずほ」による港内見学を行いました。

この日は快晴でとても穏やかな日となり、鳥海山もくっきりと見える航海日和で、コンテナ埠頭に積み上げられているコンテナや、大型の荷役機械などを見学し、港湾についての認識を新たにされたことと思います。

また、展望台の下に広がる、防波堤工事で設置する大量の消波ブロック(テトラポッド)群を間近に見学することができ、その大きさ(1個あたり重さ約50t、高さ約4m)にとっても驚かれた様子でした。

普段は海に接する機会が少ないため見学をとっても楽しみにされていたとのことで、港の施設や貨物の動向などの説明を興味深く聴いていただきました。終了後には、「酒田港がこんなに広いとは知らなかった」「コンテナ貨物が増えていることは知らなかった」などの感想をお寄せいただきました。



船上で施設について説明



消波ブロックを間近で見学



7月9日(木)、米沢市立関根小学校5年生と先生(計8名)の皆さんが酒田港を訪れ、当事務所の港湾業務艇「みずほ」に乗船し、酒田港を船上から見学しました。

この日も晴天で、酒田海洋センターで港の役割について学んだ後、「みずほ」に乗り港内を一周しました。船上では、コンテナ埠頭に着岸しているコンテナ船の状況や、スクラップを大きなクレーンで船に積み込む様子などを大変楽しそうに見学していました。

今回の見学会では、港が日々の生活や産業を支えていることを学んでいただきました。特に酒田港では港内の火力発電所用の石炭を輸入しており、普段何気なく使っている電気の供給には港が欠かせないことを実感していただけたと思います。



港について学ぶ様子



酒田港湾事務所では、皆さんに港の機能・役割・魅力を幅広く知っていただくため、港内見学会を実施しています。(⇒[みなと見学会等の申込の詳細についてはこちらのページをご覧ください。](#))

